

探偵未経験者が明かす他人に言えない尾行記録

私立探偵を自称すオレは、たいたい研修中の身の上。探偵になるための特訓を連日あつちり受けている。今日はいきなり那むの尾行研修だ。聞くところによると、電車の乗り換えを伴った尾行はとて難しいとか。はたして、無事こなせるかどうか、でも女房も子供もいるから、この研修を受けなければ、必ず探偵になって稼ぎを出さなければ、家族3人路頭に迷ってしまう。具合いを入れてやるしかない。

「じゃ、始めようか。」

尾行対象(マルタイ)は講師の中村氏と幹部A氏の2人。まず、事務所を出た2人は最寄り駅の地下鉄丸の内線本郷三丁駅へ向かった。

「3時21分、マルタイは池袋方面のホーム中程に同僚Aと立つ。服装はマルタイが青のポロシャツにジーンズ。Aは黒の青広」

オレは2人の姿を見失わないようにして、素早く手のひらに隠し持った小型ICレコーダーにマルタイの情報を小声で吹き込んだ。後々、報告書を書くときに必要なのだ。だから、簡潔かつ詳しく、こまめに情報を記録しなければならぬ。マルタイが地下鉄に乗り込んだ。車両内はそれほど混雑してはいない。オレはマルタイが乗り込んだ隣のドアから同じ車両へと降り込んだ。そして、時にはささりげなく直に、時にはガラスに反射したマルタイの姿を観察し続けた。できる限り見張っていないから、電車とはいえ、何をやるかわからないからだ。途中、マルタイは新大塚駅で車両を降りる素振りを見せる。オレは発車ギリギリまで動かずに粘った。すぐに降りなくてよかった。マルタイは降りずにそのまま乗り続けたからだ。

「(二)で先に探偵が車両を降りていたら、挙動不審ですぐに尾行がバレてしまったはず。電車の中では少しの不審な行動も尾行の命取りになる。(中村)」

マルタイは池袋駅で降り、サンシャインシティ方面へ向かう。オレは10mほど間をあけて、つかず離れず尾行を続ける。するとマルタイは東急ハンス手前のゲームセンターへ入った。オレは別の入口からゲームセンターへ、なんとこの入口からはマルタイの入った場所へはすぐに行けない。10台ほど並ぶゲーム機の壁が行く手をさえぎっていたのだ。

「ヤバイ。」

すぐに店の中を迂回して、マルタイの入った付近へ向かった。だが、そこにはもうマルタイの姿はない。消えちゃった!オレは慌てて外へ出た。中に入らないで外へ出たはず。マルタイの進路を予想しながら急いでサンシャイン60の入口あたりへ。ここからマルタイはサンシャインへ入っていったのか、それとも別の店へ向かったのか、オレは目をこらしてあたりを見回した。しかしきよきよきよとすてはいけない。あくまで一般人にとけ込まなければならぬ。いっせいでいい。」

マルタイはなんと東急ハンスの1階のエスカレーターに乗り込むところだった。Aも一瞬だ。オレは見失うまいと小走りして追いかけた。焦って飛び降り、知らぬふりをして同じ階で降りる。「実際にはどう見失うのは致命的。もし本番なら確実に尾行は失敗していた。満員電車やかなり混雑している場所での尾行はできるだけ密着して方がいい。普通に振る舞えば尾行はバレない。ただ、普通に振る舞うというところが一番難しいのだが。(中村)」

東急ハンスをさんざん歩き回っていたが、オレは注意深く目を離さずに、物陰から動きをつかろう。どんな赤坂で何を手に取っていたかなどを、ICレコーダーに詳細に記録。

ハンスを出ると、マルタイは喫茶店へ入る。オレは素早く他の出入口がないことを確認すると、家を襲って中をうかがった。マルタイが奥の席に座ってお茶を飲んでるのが見える。ここで中に入るべきだろうか。でも迷った。ヒマはなくなるのを見張ることにした。しかし、マルタイは1時間たっても出てこない。オレは店内へ入り、コーヒーを店頭で注文してマルタイの動きをつかおう。マルタイはまだ席にいた。注文したコーヒー

満員電車、繁華街、喫茶店…気づかれたら即終了の最難研修を果たして突破できるか!?



はテイクアウトにして、外で再び張り込みを始める。

「マルタイが喫茶店へ入ったから、必ず探偵も店内へ入り、誰と会うかなどチェックするのが原則。今回も入口付近こそ混んでいたが奥は空いていたので入るべき。これは確実失敗。ただ、後で入店したときにテイクアウトにとめたのは正解。その時にマルタイが店を出るところだ。見失ってしまったらどうしよう。(中村)」

喫茶店を出たマルタイは再び池袋駅へ。途中、前方へ向かって歩いてきたマルタイが突然リターンしてオレの方へ戻ってきた。オレは顔色を変えずにそのまますれ違っただけだった。そして、通り過ぎた後ろをつかかって再び尾行を開始した。

「ここで自分もあわてて歩く方向を変えたりしたら、一発で尾行は露見する。都心の雑踏で尾行がバレたら、まず尾行を継続・成功させるのは困難。(中村)」

マルタイはその後、いきなりJRの改札をくぐった。プリペイドカードのICQUAを使ったようだ。オレもイオカードを使って改札をくぐろうとしたら、ゲッター!なんと手持ちのイオカードの残金が50円のみ。あわてて切符を買ってマルタイを追ったが、万事休す。すでに山手線外回りの電車は出発した後だった。

「実際とは異なり、研修ではわざと怪しい動きをする。あえて難題をふっかけて失敗させて教える。むのむのいなのだ。駅構内の造りや路線図、支払い方法などを事前に頭に叩き込んでおくのは基本中の基本。(中村)」

ちなみに研修を終えてほどなく、実際に単独での尾行・張り込みの初仕事を3日間行った。もちろん、さつちり成功させたのは言うまでもない。現在、無事探偵職業を始めたオレ。仕事も順調で、別働隊として働いている。その話は別の機会にゆずることにしよう。

登場者プロフィール

●オレ(白比壽也)23歳
 探偵業をやめてあえて探偵という厳しい道へ進むことを選んだ。150万円のコースを選ぶ。妻子がいるので、なんとしても成功させなければいけない。ガタイがいいので、体力のいるような仕事がいい。現在は「日本調査情報センター(東京・多摩事務所)」を開業して自力で稼いでいる。

URL: <http://members.jcom.home.ne.jp/fricoms/index.htm>
 TEL: 042624-588-1111
 24時間年中無休

●マルタイ(中村)
 (株)日本調査情報センター代表。このほど私立探偵の養成プログラムを開発。探偵業の急増から、プログラチャイス事務所の募集を始める。総合探偵員コースで150万円、ジョイント経営コースで300万円。探偵研修は、経験者やサポートも行うのが特徴。費用には探偵事務所開設に必要な自社開発のアイテムなど一式も無料。自ら研修士立ち上げ中。

●マルタイ(A)
 (株)日本調査情報センター本部スタッフ。名前や経歴は秘密というところだが、かつて大手探偵事務所所属していたこともあったベテラン探偵。

取材・文/石川海 イラスト・村田らむ